

I 穀物
1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

【生産量】 2016/17年度 前年度比 ↓ 前月比 ↑

生産量は、ロシアで冬小麦の単収上昇及び春小麦の播種面積拡大に伴い増加、インド等でも増加するものの、EU等で減少することから、世界全体では前年度を下回る730.8百万トンとなる見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で上方修正され、国別には、米国、EU、ロシアで上方修正された。

【消費量】 2016/17年度 前年度比 ↑ 前月比 ↑

消費量は、EUで飼料用需要の減退に伴い減少、中国でも減少するものの、インドで食料用需要が堅調なため増加、米国等でも増加することから、世界全体では716.0百万トンと4年連続で史上最高を更新する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で上方修正され、国別には、インド、EU、米国で上方修正された。

【貿易量】 2016/17年度 前年度比 ↓ 前月比 ↑

世界全体の貿易量は、前年度より減少し、165.6百万トンとなる見込み。国別には、輸出国では、EU、米国等で増加し、ウクライナ、カナダ等で減少する見込み。輸入国では、エジプト等で増加し、EU等で減少する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で上方修正され、輸出国では米国、EU、ロシアで上方修正、輸入国ではインドネシア、ブラジルで上方修正された。

【期末在庫量】 2016/17年度 前年度比 ↑ 前月比 ↑

期末在庫量は、前年度より増加し、世界全体で史上最高の257.8百万トンとなる見込み。

国別には、インド、イラン等で在庫が取り崩されるものの、中国、ロシア等で積み増しされる見込み。世界全体の期末在庫率は36.0%と前年度より上昇する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で上方修正され、米国、ロシアで上方修正、EU、インドで下方修正された。

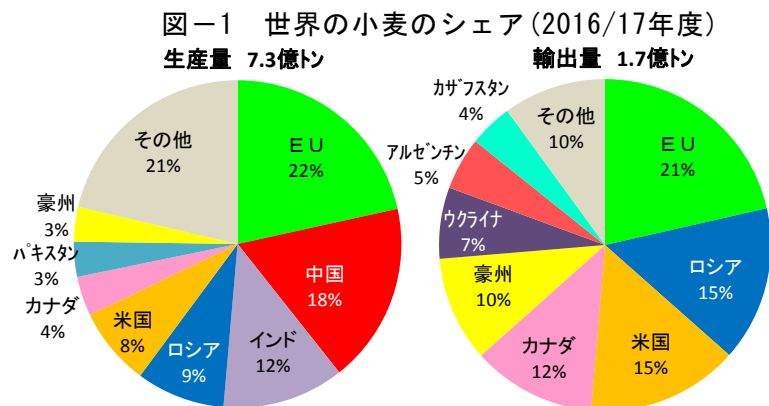


表-1 世界の小麦需給（米国農務省）

(単位:百万トン)

年度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	726.9	734.2	730.8	3.8	▲ 0.5
EU	156.8	160.0	157.5	1.0	▲ 1.6
中国	126.2	130.2	130.0	-	▲ 0.1
インド	95.9	86.5	88.0	-	1.7
ロシア	59.1	61.0	64.0	1.0	4.8
米国	55.2	55.8	56.5	2.2	1.2
カナダ	29.4	27.6	28.5	-	3.3
パキスタン	26.0	25.1	25.3	-	0.8
消費量	704.6	707.8	716.0	3.4	1.2
うち飼料用	130.8	134.1	133.5	2.4	▲ 0.5
EU	123.5	128.8	127.8	1.0	▲ 0.8
中国	116.5	112.0	110.5	-	▲ 1.3
インド	93.1	88.6	93.1	1.1	5.0
ロシア	35.5	37.0	37.5	-	1.4
米国	31.6	31.7	33.5	0.8	5.6
パキスタン	24.5	24.4	24.5	-	0.4
エジプト	19.1	19.2	19.7	-	2.6
貿易量	164.1	168.3	165.6	1.7	▲ 1.6
(輸出)					
EU	35.4	33.0	35.5	0.5	7.6
ロシア	22.8	24.5	25.0	0.5	2.0
米国	23.3	21.1	24.5	0.7	16.1
カナダ	24.2	22.5	20.0	-	▲ 11.1
豪州	16.6	16.5	17.0	-	3.0
ウクライナ	11.3	15.8	11.5	-	▲ 27.2
アルゼンチン	5.3	9.0	8.5	-	▲ 5.6
(輸入)					
エジプト	11.1	11.5	12.0	-	4.3
インドネシア	7.5	9.1	9.1	0.4	-
アルジェリア	7.3	8.1	7.5	-	▲ 7.4
EU	6.0	6.7	5.5	-	▲ 17.9
日本	5.9	5.7	5.7	-	-
ブラジル	5.4	6.0	6.0	0.2	-
トルコ	5.9	4.3	4.5	-	4.7
期末在庫量	216.5	243.0	257.8	0.5	6.1
中国	76.1	96.3	118.0	-	22.5
米国	20.5	26.7	28.6	0.6	7.2
EU	13.8	18.7	18.4	▲ 0.8	▲ 1.6
インド	17.2	14.5	11.0	▲ 0.2	▲ 24.1
イラン	7.8	8.1	5.9	-	▲ 27.0
ロシア	6.3	6.6	8.6	0.5	30.2
カナダ	7.1	3.9	4.1	-	4.9
期末在庫率	30.7%	34.3%	36.0%	▲ 0.1	1.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、
「World Agricultural Production」 (10 June 2016)

(2) 小麦の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】（詳細は右表を参照）

＜米国農務省の見通し＞

生産量は、収穫面積が減少するものの冬小麦の単収が史上最高となることから前年度より増加し、56.5百万トンとなる見込み。

消費量は、飼料用需要が増加すること等から前年度より増加し、33.5百万トンとなる見込み。

輸出量は、前年度より増加し、24.5百万トンとなる見込み。

期末在庫量は、前年度より増加し、期末在庫率は49.3%に低下する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、2015/16年度の期末在庫量で上方修正、輸出量、輸入量で下方修正、2016/17年度の実産量、消費量、輸出量で上方修正、輸入量で下方修正された。結果として、期末在庫量が下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

＜冬小麦＞

2016/17年度の播種作業は2015年9～11月に行われた。大平原での2015年9月の高温・乾燥や中西部での10～12月の降雨過多により播種や初期生育が阻害されたものの、冬季は比較的温暖となり、春季以降も総じて温暖湿潤型の天候に恵まれて生育が進展し、収穫作業は2016年5月下旬から開始されている。

米国農務省(USDA)「Crop Progress」(2016.6.20)によれば、6月19日時点の主要18州の収穫進捗率は25%と、前年同期(17%)を上回るものの過去5年平均(28%)は下回っている。作柄評価は良/やや良が61%と、前年同期(41%)を上回っている。(図-2)

＜春小麦＞

2016/17年度の播種作業は2016年4～5月に行われた。USDA「Crop Progress」(2016.6.20)によれば、6月19日時点の主要6州の出穂進捗率は28%と、前年同期(19%)、過去5年平均(14%)を上回っている。作柄評価も良/やや良が76%と前年同期(71%)を上回っている。(図-3)

図-2 冬小麦の作柄評価（主要18州）

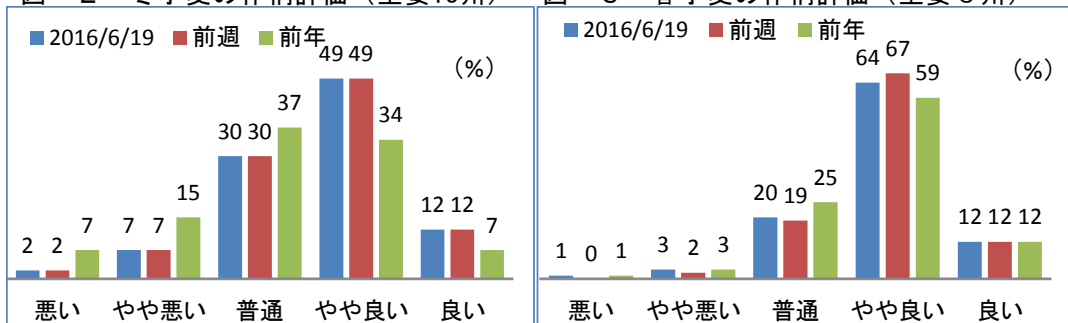
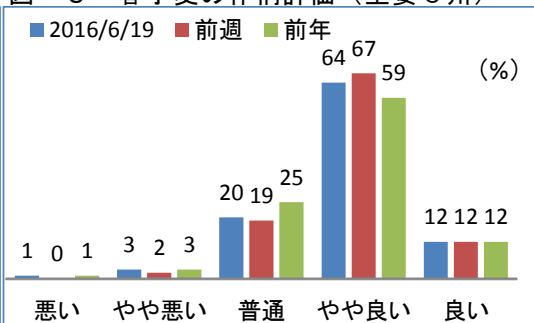


図-3 春小麦の作柄評価（主要6州）



資料：USDA「Crop Progress」(2016.6.20)をもとに農林水産省で作成

我が国の輸入先国シェア 1位 (2015年数量ベース 50.5%)
 世界の生産量シェア 5位 (2016/17年度 7.7%)
 輸出量シェア 3位 (2016/17年度 14.8%)

表-2 米国の小麦需給（市場年度：6月～翌年5月）

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	55.2	55.8	56.5	2.2	1.2
消費量	31.6	31.7	33.5	0.8	5.6
うち飼料用	3.3	3.8	5.4	0.8	42.8
輸出量	23.3	21.1	24.5	0.7	16.1
輸入量	4.1	3.2	3.4	▲ 0.1	6.9
期末在庫量	20.5	26.7	28.6	0.6	7.2
期末在庫率	37.4%	50.5%	49.3%	▲ 0.3	▲ 1.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	18.77	19.06	17.31	-	▲ 9.2
単収(t/ha)	2.94	2.93	3.27	0.13	11.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「Grain: World Markets and Trade」、
 「World Agricultural Production」(10 June 2016)

写真-1 テキサス州イタスカ
 収穫作業中の冬小麦畑(2016年5月23日撮影)



写真提供：Lindsay Kimberly氏

イ カナダ

【需給状況】（詳細は右表を参照）

<米国農務省の見通し>

生産量は、春小麦が減少するものの冬小麦が増加することから前年度より増加し、28.5百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度並みの8.8百万トンとなる見込み。

輸出量は、生産量が増加するものの前年度からの繰越在庫が少ないことから前年度より減少し、20.0百万トンとなる見込み。

期末在庫量は、前年度より増加し、期末在庫率も14.1%に上昇する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

<冬小麦>

2016/17年度の播種作業は2015年9月頃から行われ、主産地のオンタリオ州で播種条件が良好であったこと等により、カナダ全体の播種面積は前年度に比べ24.5%増の69.8万ヘクタールとなった。生育は総じて順調で、6月上旬時点で節間伸長期～出穂期、早いものは開花期を迎えている。

<春小麦>（生産量の9割程度）

2016/17年度の播種作業は2016年4月下旬から開始され、6月上旬にほぼ終了。

カナダ農務省「Outlook for principal field crops」(2016.6.17)によれば、収益性が高いデュラム小麦の播種面積は前年度を5%上回るものの、春小麦は豆類、粗粒穀物、デュラム小麦へのシフトにより6%減となる見込み。

米国農務省(USDA)「World Agricultural Production」(2016.6.10)によれば、5月は温暖乾燥型の天候となり、月末には降雨も観測されたことから発芽が進展している。5月23日時点のサスカチュワン州及びアルバータ州の土壌水分量は86%が良/やや良となり、小麦主産地の生育進捗は平年をやや上回っている。

サスカチュワン州農業省「Crop Report」によれば、6月は温暖型の天候により生育は順調に進展し、春穀物の大部分は6月6日時点で発芽期～分けつ期を迎えている。6月13日時点の作柄は、春小麦の良/やや良が92%、デュラム小麦は96%となっている。

アルバータ州農林業省「Alberta Crop Report」によれば、6月上旬は温暖乾燥型の天候となったが、中旬にはほぼ全域で降雨が観測されて生育が進展し、6月13日時点で大部分が節間伸長期を迎えている。作柄は、春小麦の良/やや良が83.3%、デュラム小麦は79.9%となっている。

マニトバ州農業食品地域開発省「Crop Report」によれば、6月上旬は温暖乾燥型の天候となったが、低地では5月の降雨過多の影響が残っており、一部で発芽や初期生育への悪影響や農作業の遅れが生じている模様。

【貿易情報・その他】

カナダ穀物協会(CGC)「Grain Statistics Weekly」によれば、2015/16年度の輸出量累計は、2016年6月12日時点で普通小麦14.1百万トン(対前年同期比6.4%減)、デュラム小麦4.0百万トン(同8.0%減)となっている。

（我が国の輸入先国シェア2位（2015年数量ベース 29.2%）
世界の生産量シェア 6位（2016/17年度 3.9%）
輸出量シェア 4位（2016/17年度 12.1%）

表－3 カナダの小麦需給（市場年度：8月～翌年7月）

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	29.4	27.6	28.5 (28.9)	-	3.3
消費量	9.1	8.8	8.8 (8.7)	-	-
うち飼料用	3.8	3.6	3.6 (3.7)	-	-
輸出量	24.2	22.5	20.0 (20.8)	-	▲ 11.1
輸入量	0.5	0.5	0.5 (0.1)	-	-
期末在庫量	7.1	3.9	4.1 (3.7)	-	4.9
期末在庫率	21.3%	12.3%	14.1% (12.4%)	-	1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.48	9.60	9.45 (9.48)	-	▲ 1.6
単収(t/ha)	3.10	2.88	3.02 (3.05)	-	4.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(10 June 2016)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(18 May 2016)

写真－2 カナダ東部 オンタリオ州（2016年6月7日撮影）

－順調に生育し、開花期を迎えた冬小麦－



写真提供：Jonathan Follings氏

ウ 豪州

【需給状況】（詳細は右表を参照）

<米国農務省の見通し>

生産量は、前年度より増加し、25.0百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度より増加し、7.5百万トンとなる見込み。

輸出量は、生産増に伴い前年度より増加し、17.0百万トンとなる見込み。

期末在庫量は、前年度より増加し、期末在庫率も23.0%に上昇する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2016/17年度の播種作業は2016年4月から開始され、現地調査会社によれば、5月末時点の播種進捗率は、西オーストラリア州及び南オーストラリア州で95%、ビクトリア州で90%、ニューサウスウェールズ州及びクイーンズランド州で85%となっている。

なお、収穫作業は2016年8～9月に行われる見込み。

豪州資源経済科学局(ABARES)「Australian crop report」(2016.6.15)によれば、生産量は前年度を4.9%上回る25.4百万トンとなる見込み。これは、高収益が見込まれるなたね、オーツ麦、豆類への転作により播種面積が前年度を0.6%下回るものの、播種時期に降雨に恵まれて作柄が良好なことから単収が5.8%上回るため。地域別には、主産地の西オーストラリア州では3～4月の雨に恵まれて播種条件が良好となり、南東部の南オーストラリア州、ビクトリア州、ニューサウスウェールズ州南部では5月の降水量が平年を上回った。また、降雨不足となっていたニューサウスウェールズ州北部及びクイーンズランド州でも6月上旬に平年を上回る降雨があつて播種条件が改善した。

豪州気象局(BOM)「Climate Outlooks」(2016.5.26)によれば、2015～16年に発生したエルニーニョ現象は終息し、5月26日現在、エルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない中立的な状態となっているが、7月にはラニーニャ現象が発生する可能性がある。なお、同現象が発生した場合、6～8月の降水量は豪州の大部分の地域で平年を上回ると見られる。また、同局の「ENSO-Wrap Up」(2016.6.7)によれば、2016年後半にラニーニャ現象が発生する確率は50%となっている。

【貿易情報・その他】

国際穀物理事会(IGC)「Grain Market Report」(2016.5.26)によれば、2016/17年度の輸出量は、カナダの生産減に伴う東アジア向け輸出の減少を受けて豪州の輸出が伸びると見られ、前年度(17.0百万トン)を上回る17.8百万トンとなる見込み。

ABARES「Agricultural commodities」(2016.6.21)によれば、2016/17年度の輸出量は、期首在庫が多く生産量も増加することから、17.2百万トンと前年度を3.7%上回るものの、輸出額は小麦の国際価格低迷を受けて48.7億豪ドル(約4,105億円)と前年度を7.0%下回る見込み。

我が国の輸入先国シェア 3位 (2015年数量ベース 16.3%)
世界の生産量シェア 8位 (2016/17年度 3.4%)
輸出量シェア 5位 (2016/17年度 10.3%)

表-4 豪州の小麦需給 (市場年度: 10月～翌年9月)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、()はABARES	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	23.1	24.5	25.0 (25.4)	-	2.0
消費量	7.2	7.2	7.5 (…)	-	3.2
うち飼料用	3.8	3.8	4.0 (…)	-	5.3
輸 出 量	16.6	16.5	17.0 (17.2)	-	3.0
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 (…)	-	-
期末在庫量	4.0	4.9	5.6 (…)	-	14.0
期末在庫率	16.8%	20.8%	23.0% (…)	-	2.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	12.16	12.75	13.00 (12.72)	-	2.0
単収(t/ha)	1.90	1.92	1.92 (2.00)	-	-

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(10 June 2016)
ABARES 「Agricultural commodities」(21 June 2016) (※ABARESは作付面積)

写真-3 ビクトリア州 スワンヒル(2016年5月28日撮影)

一順調に生長し、分けつ期を迎える小麦畑一



写真提供: Australian Crop Forecasters

エ EU

【需給状況】（詳細は右表を参照）

＜米国農務省の見通し＞

生産量は、収穫面積が増加するものの単収が低下することから前年度より減少し、157.5百万トンとなる見込み。

消費量は、飼料用需要が小麦から粗粒穀物に移行することに伴い減退することから前年度より減少し、127.8百万トンとなる見込み。

輸出量は、前年度からの繰越在庫が多いこと等から、史上最高の35.5百万トンとなる見込み。

輸入量は、前年度より減少し、5.5百万トンとなる見込み。

期末在庫量は前年度より減少し、期末在庫率も11.3%に低下する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、2015/16年度の輸出量、輸入量で上方修正、期末在庫量で下方修正、2016/17年度の実産量、消費量、輸出量で上方修正された。結果として、期末在庫量が下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2016/17年度の冬小麦の播種作業は、2015年8月から11月半ばに行われた。

米国農務省(USDA)「Wheat Outlook」(2016.6.14)によれば、欧州では冬季及び春季は総じて温暖湿潤型の天候となっていたところ、5月下旬以降、フランス、スペイン、ルーマニア及びハンガリーで平年を上回る降雨が観測された。この影響は、次のとおり各国の生育段階の違いにより異なるが、欧州全体の生産量は前月から1.0百万トン上方修正され、157.5百万トンとなる見込み。

- ・フランス：開花期から登熟初期に主産地で1ヶ月近くに亘って平年の約2倍の降雨に見舞われ、品質が劣化した模様。
- ・スペイン：出穂期から開花初期に10日間程度雨が降り、それまで続いていた乾燥状態が緩和され、単収が史上最高のレベルに達する見込み。
- ・ルーマニア、ハンガリー：適期に雨が到来し、豊作が見込まれる。

欧州委員会のMARS報告「Crop monitoring in Europe」(2016.6.20)によれば、6月中旬現在、大部分で開花期～登熟期を迎え、南部の一部ではデュラム小麦の収穫が開始されている。

【貿易情報・その他】

USDA「Grain:World Markets & Trade」(2016.6.10)は、2016/17年度の実輸出量について、前年度後半から継続して輸出が好調であること等から、前月から0.5百万トン増の35.5百万トンに上方修正した。

欧州委員会「Export and import commitments」によれば、2015/16年度(2015年7月～)の実輸出量は、2016年6月14日時点で、軟質小麦(小麦粉を含む)は31.2百万トン(対前年度同期比0.2%減)、デュラム小麦は0.9百万トン(同8.9%減)となっている。

我が国の輸入先国シェア 5位 (2015年数量ベース 1.8%)
 世界の生産量シェア 1位 (2016/17年度 21.6%)
 輸出量シェア 1位 (2016/17年度 21.4%)

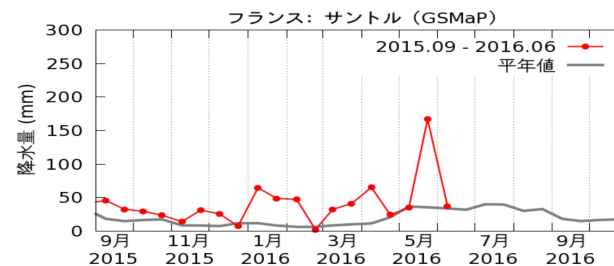
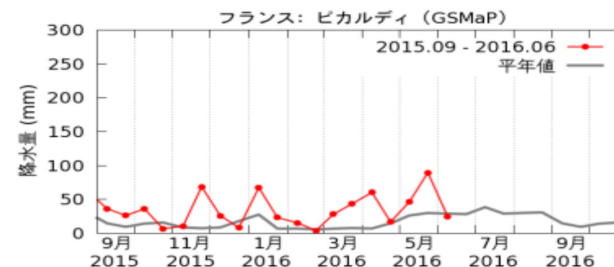
表-5 EUの小麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、()はEU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	156.8	160.0	157.5 (153.9)	1.0	▲ 1.6
消費量	123.5	128.8	127.8 (127.2)	1.0	▲ 0.8
うち飼料用	54.0	59.0	57.5 (54.0)	1.0	▲ 2.5
輸出量	35.4	33.0	35.5 (30.3)	0.5	7.6
輸入量	6.0	6.7	5.5 (5.2)	-	▲ 17.9
期末在庫量	13.8	18.7	18.4 (20.5)	▲ 0.8	▲ 1.6
期末在庫率	8.7%	11.6%	11.3% (13.0%)	▲ 0.6	▲ 0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	26.73	26.76	26.81 (26.58)	-	0.2
単収(t/ha)	5.87	5.98	5.87 (5.80)	0.03	▲ 1.8

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「Grain:World Markets and Trade」、
 「World Agricultural Production」(10 June 2016)
 EU「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」(26 May 2016)

図-4 フランス北部の5月下旬の降水量

—5月下旬、フランスでは平年を上回る雨を観測—



資料:JAXA「降水量(GSMaP)」

オ 中国

(世界の生産量シェア 2位 (2016/17年度 17.9%))

表-6 中国の小麦需給 (市場年度: 7月~翌年6月)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	126.2	130.2	130.0 (127.4)	-	▲ 0.1
消費量	116.5	112.0	110.5 (115.6)	-	▲ 1.3
うち飼料用	16.0	10.5	9.5 (15.0)	-	▲ 9.5
輸 出 量	0.8	1.0	1.0 (0.4)	-	-
輸 入 量	1.9	3.0	3.2 (2.0)	-	6.7
期末在庫量	76.1	96.3	118.0 (90.0)	-	22.5
期末在庫率	64.9%	85.2%	105.8% (77.5%)	-	20.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.07	24.14	24.30 (24.30)	-	0.7
単収(t/ha)	5.24	5.39	5.35 (5.24)	-	▲ 0.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(10 June 2016)
IGC 「Grain Market Report」(26 May 2016)

【生育進捗状況及び作柄】

＜冬小麦＞

2016/17年度の播種作業は2015年9~11月頃に行われた。一部産地で冬季の凍害、春季の乾燥に見舞われたものの、大部分の産地では総じて温暖湿潤型の天候に恵まれて順調に生育が進展し、2016年5月頃から収穫作業が開始された。

中国中央气象台「農業気象週報」によれば、6月中旬に河北省、山東省の一部で暴風雨による倒伏等の被害が発生したものの、大部分では総じて晴天となり収穫作業が進展し、6月18日時点の進捗率は中国全体で95%、うち河南省、山東省、安徽省で終了、河北省では終盤に近づき、山西省90%、天津50%、北京45%となっている。

＜春小麦＞

2016/17年度の播種は2016年3~5月に行われ、中国中央气象台「農業気象週報」によれば、6月の気温と日照量は平年並みからやや上回り生育が進展し、6月18日現在、西北地区の大部分で開花期、華北地区で三葉期~開花期、東北地区で分けつ期~穂孕期を迎えた。

【貿易情報・その他】

中国税関(海関)統計によれば、2016年1~5月の小麦輸入量累計は129.8万トン(対前年同期比34.4%増)となった。国別内訳は、豪州59.1万トン(シェア45.5%)、カナダ32.5万トン(同25.1%)、カザフスタン19.2万トン(同14.8%)、米国18.9万トン(同14.6%)等となっている。

国際連合食糧農業機関(FAO)「Food Outlook」(2016.6.2)によれば、2016/17年度の消費量は減少する見込み。これは、とうもろこし備蓄制度の廃止に伴う国内のとうもろこしの飼料用需要の増加を受けて、小麦の飼料用需要の減退が見込まれるため。

カ インド

(世界の生産量シェア 3位 (2016/17年度 12.1%))

表-7 インドの小麦需給 (市場年度: 4月~翌年3月)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	95.9	86.5	88.0 (90.0)	-	1.7
消費量	93.1	88.6	93.1 (92.4)	1.1	5.0
うち飼料用	4.5	4.2	4.5 (4.0)	-	7.1
輸 出 量	3.4	1.1	0.4 (0.3)	-	▲ 62.3
輸 入 量	0.1	0.5	2.0 (1.0)	1.0	325.5
期末在庫量	17.2	14.5	11.0 (12.8)	▲ 0.2	▲ 24.1
期末在庫率	17.8%	16.2%	11.8% (13.8%)	▲ 0.3	▲ 4.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.47	31.47	29.80 (29.30)	0.40	▲ 5.3
単収(t/ha)	3.15	2.75	2.95 (3.07)	▲ 0.04	7.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(10 June 2016)
IGC 「Grain Market Report」(26 May 2016)

【生育進捗状況及び作柄】

2016/17年度の播種作業は2015年10月中旬~2016年1月末頃に行われ、収穫作業は5月上旬にほぼ終了。インド農業省によれば、生産量は94.0百万トンとなる見込み。

国際穀物理事会(IGC)「Grain Market Report」(2016.5.26)によれば、乾燥型の天候により播種作業や初期生育が阻害されたが、シーズン後半の比較的冷涼湿潤型の天候により作柄が改善した。生産量は90.0百万トンと前年度(86.5百万トン)から回復するものの、過去5年平均をわずかに下回る見込み。

【貿易情報・その他】

インドは、7月1日時点の政府在庫に関し、政府備蓄3.0百万トン、緩衝在庫24.6百万トンの計27.6百万トンを目標としているところ、インド食料公社(FCI)データによれば、2016年6月1日時点の政府在庫量は32.6百万トン(前年同期40.4百万トン)。

2016年2月15日、インド消費者食料公共配給省は、2016/17年度の小麦の政府買入目標数量について、前年度の買入数量(28.1百万トン)を上回る30.0百万トンと発表。FCIデータによれば、2016年5月30日時点の買入数量は22.9百万トンと、前年同期(26.8百万トン)を下回っている。

米国農務省(USDA)「Grain: World Markets & Trade」(2016.6.10)によれば、2016/17年度の輸入量は、国際価格の低迷及び国内買入れの不調から豪州やEUからの輸入が増加し、前年度を大きく上回る2.0百万トンとなる見込み。

キ ロシア

【需給状況】（詳細は右表を参照）

＜米国農務省の見通し＞

生産量は、冬小麦の単収が上昇するとともに春小麦の播種面積が拡大することから、史上最高の64.0百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度より増加し、37.5百万トンとなる見込み。

輸出量は、生産増に伴い史上最高の25.0百万トンとなる見込み。

期末在庫量は、前年度より増加し、期末在庫率も13.8%に上昇する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、生産量、輸出量で上方修正された。結果として、期末在庫量が上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

＜冬小麦＞（生産量の7割程度）

2016/17年度の播種作業は2015年8月末から10月末に行われた。2015年夏から秋にかけての乾燥により発芽や初期生育が阻害されたものの、10月末以降は温暖湿潤型の天候となり作柄が改善した。越冬条件は並みとなり、温暖な気候を受けて例年より早く休眠明けを迎えた。

ロシア気象センターによれば、5月は主産地の南部連邦管区及び北コーカサス連邦管区で冷涼湿潤型の天候となり、一部で病虫害が発生したものの、作物と土壌水分の状態は総じて良好/並となっている。生育は平年より10～15日程度早いペースで進展し、5月末時点で出穂期～乳熟期を迎えている。中央連邦管区及び沿ヴォルガ連邦管区では、5月上旬は温暖乾燥型の天候となったが中旬以降は雨がちな天候となり、中央黒土地帯の一部では強風・降雹による倒伏が見られるものの、他の地域の作柄は概ね良好で、5月末時点で大部分が出穂期を迎え、一部で乳熟期に入っている。

米国農務省(USDA)「World Agricultural Production」(2016.6.10)によれば、収穫作業は2016年6月下旬頃から開始される予定となっている。

＜春小麦＞

2016/17年度の播種作業は2016年6月上旬にほぼ終了。ロシア農業省(速報値)によれば、6月15日時点の播種面積は13.6百万ヘクタール(対前年度比2.3%増)。

ロシア気象センターによれば、5月は主産地のシベリア連邦管区、沿ヴォルガ連邦管区及びウラル連邦管区で総じて冷涼湿潤型の天候となったものの、播種作業の条件は概ね並み。5月末時点で発芽期～分けつ期を迎え、作柄は良好/並となっている。

【貿易情報、その他】

ロシア連邦税関局によれば、2015/16年度(2015年7月～)の小麦輸出量累計は、2016年4月末時点で22.0百万トン(対前年度同期比10.7%増)となった。

2016年6月7日、ロシア農業省農産物市場調整・食品加工産業局のシロトキン局長は、2016/17年度の国家備蓄在庫の買入れに関し、「買入れ実施に必要な連邦予算を削減する必要があるため、大規模な買入れを予定していない。買入れは穀倉地帯の生産者支援に必要な範囲内で局地的に行われる」と述べた。

（世界の生産量シェア 4位 (2016/17年度 8.7%)）
（輸出量シェア 2位 (2016/17年度 14.9%)）

表－8 ロシアの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

(単位:百万トン)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	59.1	61.0	64.0 (61.0)	1.0	4.8
消費量	35.5	37.0	37.5 (37.0)	-	1.4
うち飼料用	13.0	14.0	14.5 (14.5)	-	3.6
輸出量	22.8	24.5	25.0 (24.5)	0.5	2.0
輸入量	0.3	0.8	0.5 (0.5)	-	▲ 37.5
期末在庫量	6.3	6.6	8.6 (7.4)	0.5	30.2
期末在庫率	10.8%	10.8%	13.8% (12.0%)	0.7	3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.64	25.58	26.00 (25.00)	0.50	1.6
単収(t/ha)	2.50	2.39	2.46 (2.44)	▲ 0.01	2.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(10 June 2016)
IGC 「Grain Market Report」 (26 May 2016)

写真－4 ロシア南部ヴォルゴグラード州エランスキー地区
－開花期を迎えた冬小麦畑－（2016年6月10日撮影）
同地域の作柄は9割が良好、1割が例年並み。



ク ウクライナ

【需給状況】（詳細は右表を参照）

<米国農務省の見通し>

生産量は、収穫面積が減少するとともに単収が低下することから前年度より減少し、24.0百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度並みの12.5百万トンとなる見込み。

輸出量は、生産減に伴い前年度より減少し、11.5百万トンとなる見込み。

期末在庫量は、前年度より増加し、期末在庫率も17.7%に上昇する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、2015/16年度の輸出量で上方修正、期末在庫量で下方修正された。結果として、2016/17年度の期末在庫量が下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

<冬小麦>（生産量の9割以上）

2016/17年度の播種作業は2015年9月に開始されたが、乾燥のため作業が遅延し、ウクライナ農業政策食料省によれば、播種面積は598万ヘクタールと前年度を12%下回った。12月末の気温低下に伴い一部産地では生育不足のまま休眠入りしたが、2016年3月上旬以降は温暖な気候が続く、作柄が改善した。現地調査会社によれば、5月末時点で出穂期～開花期を迎え、一部で虫害や5月下旬の大雨による倒伏の被害が見られるものの、作柄は総じて良好/並となっている。

2016年5月20日、クボトイ農業政策食料大臣は、冬作物は最大で100万ヘクタールが生育不良の状態にあったが、春季は好天に恵まれたため状態が改善され、蒔き直し面積は約10万ヘクタールに留まったと述べた。

なお、現地調査会社による生産者への聞き取りによれば、5月下旬以降の長引く降雨により中央部、東部では播種面積の30～50%に病害の影響が出ている。しかし、この雨で農薬の散布が妨げられ、散布できたほ場でもその後の雨で洗い流されてしまうとのこと。

<春小麦>

2016/17年度の播種作業は2016年3月から開始され、4月下旬にはほぼ終了した。ウクライナ農業政策食料省(2016.5.12)によれば、播種面積は16.4万ヘクタールとなった。

現地調査会社によれば、5月末時点で分けつ期～出穂期を迎え、作柄は良好/並となっているが、西部、東部及び南部で病害が報告されるとともに、中央部と南部の一部では大雨による倒伏の被害が見られる模様。

【貿易情報・その他】

ウクライナ税関によれば、2015/16年度(2015年7月～)の小麦輸出量累計は、2016年4月末時点で対前年度同期比40.2%増の14.2百万トンとなった。国別内訳は、タイ2.1百万トン(シェア14.6%)、エジプト2.0百万トン(同13.8%)、インドネシア1.3百万トン(同8.8%)等となった。

我が国の輸入先国シェア 4位 (2015年数量ベース 2.1%)
世界の生産量シェア 9位 (2016/17年度 3.3%)
輸出量シェア 6位 (2016/17年度 7.0%)

表－9 ウクライナの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

(単位:百万トン)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	24.8	27.3	24.0 (21.5)	-	▲12.0
消費量	12.0	12.5	12.5 (12.4)	-	-
うち飼料用	4.0	4.5	4.5 (4.0)	-	-
輸出量	11.3	15.8	11.5 (9.6)	-	▲27.2
輸入量	0.0	0.1	0.1 (…)	-	-
期末在庫量	5.2	4.2	4.3 (4.2)	▲0.3	1.2
期末在庫率	22.3%	14.8%	17.7% (19.2%)	▲1.3	2.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.30	7.12	6.40 (6.00)	-	▲10.1
単収(t/ha)	3.93	3.83	3.75 (3.58)	-	▲2.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(10 June 2016)
IGC 「Grain Market Report」(26 May 2016)

写真－5 ウクライナ南部 ザポロジエ州ベルジャンスキー地区
－登熟期を迎える冬小麦畑－（2016年6月3日撮影）

同地域の作柄は95%が良好、5%が例年並み。



ケ カザフスタン

【需給状況】（詳細は右表を参照）

<米国農務省の見通し>

生産量は、収穫面積が減少するとともに単収が低下することから前年度より減少し、13.0百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度並みの6.9百万トンとなる見込み。

輸出量は、生産減に伴い前年度より減少し、7.0百万トンとなる見込み。

期末在庫量は前年度より減少し、期末在庫率も13.2%に低下する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2016/17年度の春小麦の播種作業は、南部では2016年3月から、主産地の北部では4月下旬から開始された。

カザフスタン農業省によれば、6月15日時点の麦類全体（小麦、ライ麦、大麦、えん麦等）の播種面積は14.5百万ヘクタールと、前年同期（11.7百万ヘクタール）を上回っている。

カザフスタン国家気象局（2016年5月）によれば、播種作業は5月初旬～中旬の降雨により南東部や西部の一部で停滞したものの、大部分の産地では総じて前年並みとなった。5月末現在、南部のアルマトイ州ではほぼ終了し、発芽期～出穂期を迎えている。西部では発芽期～第3葉形成期を迎え、作物の状態は良好。主産地の北部では播種作業が続き、早いものは分けつ期を迎えているが、夜間気温の低下により発芽や初期生育が遅れている模様。

【貿易情報・その他】

カザフスタン国家経済省経済委員会によれば、2016年6月1日時点の在庫量は435万トンと前年同期（656万トン）を下回った。うち製粉用は370万トン、飼料用は22.1万トン、種子用は42.9万トンとなった。

カザフスタン財務省税関監督委員会によれば、2015/16貿易年度（2015年7月～）の小麦輸出量累計（関税同盟加盟国（ロシア、ベラルーシ）向けを除く）は、2016年4月末時点で300.2万トン（対前年度同期比16.0%増）となった。国別内訳は、ウズベキスタン125.9万トン（シェア41.9%）、タジキスタン76.2万トン（同 25.4%）と中央アジア諸国が上位を占めており、次いでイラン25.5万トン、中国22.3万トン、アフガニスタン21.9万トン等となった。

なお、中国向け輸出については、2015年9月の首脳会談、11月のサギンタエフ・カザフスタン第一副首相と張高麗・中国国務院常務副総理（第一副首相）との会談を経て、2016年1月には両国間の植物検疫に関する協定が締結され、バラ積みでの穀物輸出が可能となっており、2015/16貿易年度の4月末までの輸出量は、前年度同期（7.3万トン）に比べ205.4%増となっている。

2016年6月13日、カザフスタン農業省は、2016/17年度の小麦の輸出量について、7.0～7.5百万トン程度となるとの見通しを示した。

（世界の輸出量シェア 8位（2016/17年度 4.0%））

表-10 カザフスタンの小麦需給（市場年度：9月～翌年8月）

（単位：百万トン）

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	13.0	13.8	13.0 (13.5)	-	▲ 5.4
消費量	6.8	6.9	6.9 (6.7)	-	-
うち飼料用	2.0	2.1	2.1 (2.0)	-	-
輸出量	5.5	7.5	7.0 (6.5)	-	▲ 6.7
輸入量	0.6	0.1	0.1 (…)	-	▲ 25.0
期末在庫量	3.3	2.7	1.8 (3.2)	-	▲ 31.5
期末在庫率	26.3%	18.5%	13.2% (24.0%)	-	▲ 5.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	11.92	11.57	11.00 (12.00)	-	▲ 4.9
単収(t/ha)	1.09	1.19	1.18 (1.13)	-	▲ 0.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(10 June 2016)
IGC 「Grain Market Report」(26 May 2016)

写真-6 北カザフスタン州（2016年6月2日撮影）

一春小麦播種前の耕起作業一



コ アルゼンチン

【需給状況】（詳細は右表を参照）

<米国農務省の見通し>

生産量は、輸出規制撤廃に伴う生産意欲拡大により収穫面積が増加することから前年度より増加し、14.5百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度より増加し、6.3百万トンとなる見込み。

輸出量は、前年度並みの8.5百万トンとなる見込み。

期末在庫量は、前年度より減少し、期末在庫率も4.9%に低下する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、2015/16年度の輸出量で上方修正、期末在庫量で下方修正された。結果として、2016/17年度の期末在庫量が下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2016/17年度の播種作業は、2016年5月中旬から開始された。

国際穀物理事会(IGC)「Grain Market Report」(2016.5.26)によれば、雨がちの天候による前作(大豆)の収穫遅延に伴い、小麦の播種作業の開始が遅れている。播種面積は輸出規制撤廃と収益性の改善見込みを受けて大幅に伸びると見られ、生産量は前年度比29.2%増の14.6百万トンとなる見込み。

ブエノスアイレス取引所週報によれば、6月上旬は好天に恵まれて播種作業が急ピッチで進展し、アルゼンチン全体の6月16日時点の播種進捗率は、前年同期(34.7%)を下回るものの、前週からは13.6ポイント増の30.0%となった。地域別には、北西部では既に75%で播種が終了しているが、4月に大雨に見舞われたブエノスアイレス州南東部では6%に留まっている。なお、播種面積については前年度(3.6百万ヘクタール)を25%上回る4.5百万ヘクタールとなる見込み。

一方、アルゼンチン農産省によれば、播種面積は5.34百万ヘクタールと前年度(4.37百万ヘクタール)を22.1%上回る見込みで、6月16日時点で1.71百万ヘクタールで播種が終了し、進捗率は32%と前年同期(42%)を10ポイント下回っている。

【貿易情報・その他】

2015年12月17日、アルゼンチン政府は、農産物の輸出税を撤廃・引下げの旨を公示し、小麦輸出税(23%)は撤廃された。また、12月29日には穀物・油糧種子の輸出登録制度(ROE)も廃止され、2016年以降の輸出量は前年に比べて増加している。

アルゼンチン農産省農畜食糧衛生品質管理センター(SENASA)によれば、2016年1～4月の小麦輸出量累計は450.2万トン(対前年同期比125.2%増)となった。国別内訳は、隣国ブラジルが133.1万トン(シェア29.6%)となっているほか、インドネシア83.0万トン(同18.4%)、タイ13.1万トン(同13.1%)、ベトナム(同8.9%)、韓国(同8.8%)等とアジア向けも多くなっている。

(世界の輸出量シェア 7位 (2016/17年度 5.2%))

表-11 アルゼンチンの小麦需給(市場年度:12月～翌年11月)
(単位:百万トン)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	14.0	11.3	14.5 (14.6)	-	28.3
消費量	6.4	6.2	6.3 (6.3)	-	2.4
うち飼料用	0.3	0.1	0.1 (1.0)	-	-
輸 出 量	5.3	9.0	8.5 (8.4)	-	▲ 5.6
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	-
期末在庫量	4.9	1.0	0.7 (1.4)	▲ 0.5	▲ 29.1
期末在庫率	41.8%	6.8%	4.9% (9.4%)	▲ 3.4	▲ 1.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.96	3.77	4.80 (5.10)	-	27.3
単収(t/ha)	2.82	3.00	3.02 (2.86)	-	0.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(10 June 2016)
IGC 「Grain Market Report」(26 May 2016)

写真-7 アルゼンチン ブエノスアイレス州 (2016年6月19撮影)

—これから使用される小麦の播種機(上)と肥料散布機(下)—



写真提供: Ricardo Hara氏